

第1号議案 2021年度事業報告承認の件

2021年度事業報告書

2021年は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大が長期間にわたり続いたことから、社会経済全体に大きな影響を及ぼした。

このような状況の中、当協議会では、感染対策を講じながら当初に計画した事業を可能な限り実施しようとしましたが、会議、講習会、セミナー、行事等が一部について、延期、規模の縮小、中止などをせざるを得ない状況となりました。

しかし、コロナ禍にあっても会員事業所の皆様のご理解・ご支援をいただき、道路整備、排水対策及び交通問題などの事業所活動に係る環境整備や様々な課題の解消を関係機関に要請し、協議しながら共にその解決に努めてまいりました。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のためのワクチン接種については、関係者の協力を得ていち早く新型コロナワクチン職域接種の実施に取り組み、多くの会員の皆様の期待に応えてまいりました。

さらに、会員の皆様のご意見・ご要望などを聞く機会を確保しながらその実現に応えるべく取り組んできました。

具体的な活動状況等については、以下のとおりです。

(1) 協議会組織の強化と活性化について

会員数については、正会員の新規加入9社、会社併合や廃業等による退会が3社あり、結果として229社となりました。なお、このうち賛助会員は5社となっており増減はありません。

当協議会の運営の基本となる理事会、各種委員会及びブロック会議等については、随時開催し、各種事業や課題解決等に向けて一体感を持って取り組むこととしておりましたが、コロナ禍にあって、やむを得ず書面会議としたもの、中止したものが多く生じてしまいました。

3役会議については、当協議会の運営の方向を協議・調整するものであることから、毎月開催したほか、会員の皆様からは意見・要望などを書面等により聞く機会を設けて運営に反映させるなど、運営に支障がないように努めました。

次に、ホームページの活用により情報発信の強化と情報共有の促進などを図りました。

また、会報や情報誌等の配布については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、昨年に引き続きメール便による個別配布としました。

(2) 講習会等について

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があった者の感染対策を講じながら可能な限り実施しました。

実施したものは、玉掛け技能講習などの12講習で222人が受講し、資格者の育成が図られました。(前年度：10講習、208人受講)

新規の要望のあったフルハーネス特別教育を1回開催しました。しかしながら、玉掛け技能講習及び研削といし特別教育については受講者の状況を勘案し実施回数をそれぞれ1回減らしたほか、フォークリフト運転技能講習及び小型移動式クレーン技能講習は、講習実施機関の運営等の関係から出張講習を取止め、近隣の講習実施機関への案内を受講者の利便を考慮して行うこととしました。

また、生産性向上支援セミナー2講座及びIT実践セミナーについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き次年度に延期して開催することとしま

した。

(3) 労働安全・労働衛生等について

例年、船橋労働基準監督署及び（一社）船橋労働基準協会と連携し、全国安全週間大会、全国労働衛生週間大会、年末年始無災害運動などを開催していますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により年末年始無災害運動のみの開催にとどまった。

当協議会では、労働安全衛生意識の高揚を図るため、安全の指標を全会員に無償配布したほか、会報において労働災害の防止を呼びかけるとともに、関係機関と連携し、ポスターなどの労働安全衛生グッズの配布等に努めました。

(4) 健康・衛生事業について

新型コロナウイルス感染症の感染防止のための新型コロナワクチン接種について、国の要請にいち早く対応し、当協議会では職域接種の実施を決め、7月から9月にかけて2回の接種を病院や市などの関係機関の協力を得て、8週に渡り日曜日に実施し、延べ約7,000人に接種した。

さらに、変異株のオミクロン株が猛威を振るう第6派の到来を受け3回目の接種となる追加の職域接種を3月から4月にかけて4週にわたり実施し、約2,500人に接種した。

また、例年行われる当協議会による合同健康診断（春・秋）及びインフルエンザ予防接種（2回）については、新型コロナウイルス感染症の防止を図るため、時間指定の遵守や感染防止対策の徹底などにより、関係者の理解を得て予定通り実施するとともに、井戸水水質検査などを行い、健康・衛生管理の促進を図りました。

なお、昨年に引き続き衛生的で安全な飲料水である上水道の整備を市に要請しました。

(5) 環境整備について

道路関係では、白井市に工業団地アクセス道路の早期完了とともに、桜台地区からの新たな計画道路の早期整備着手を引き続き要請しました。

道路の補修、雨水排水対策、歩行者の防護柱の設置などについては、随時、関係部署に要望し、改善に努めました。

また、工業団地内の危険な交差点へのさらなる信号機の設置とともに、防犯のための巡回パトロールを印西警察署に要望しました。

さらに、春・秋の工業団地一斉清掃・ごみゼロ運動は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、市の助言を得てまちピカ運動として市の協力のもと実施しました。また、防犯灯の新設・補修などの要望を随時行い、清潔で安全な工業団地の維持に努めました。

なお、車両や資機材などの窃盗などを防止するため、長期休業期間となる5月の連休、夏季休業期間及び年末年始の休業期間において、民間警備会社による工業団地内の昼・夜間の防犯パトロールを実施するなど、防犯対策にも努めました。

(6) 交流・親睦について

今年度についても新型コロナウイルス感染症の影響により、親善野球大会、納涼盆踊り大会及び賀詞交歓会などがすべて中止となりました。

なお、創設50年の記念誌の発行を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症への対応などにより作成ができませんでしたが、来年度に時機を見て作成する予定です。

(7) 事業支援について

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、県内大学との技術開発支援や雇用拡大に向けたインターンシップなどの取り組みが、実施できませんでした。

国の助成制度を活用した生産性向上支援セミナー（2講座）やIT実践セミナーについても同様に開催できませんでした。

例年行っているサテライト相談については、年4回開催するとともに、知財総合支援相談を毎月1回開催し、経営支援等に努めました。

ホームページのトップページから各社の求人情報がみられるようにし、雇用確保のために一助としました。

前年度制度化した広告掲載については、会員の事業、商品やイベントなどの紹介を会報に掲載するとともに、会報配布時の折り込みチラシとして会員へ配布するなどし、会員間の相互理解や業務拡大の一助とした。

また、白井市内外からの業務受・発注等の情報提供を進めた。

(8) 白井工業団地産業振興センターの活用について

当該センターを活用し、サテライト相談（年4回）及び知財総合支援相談を毎月1回開催しましたが、利用状況は低迷をしており、またコロナ禍にあって、一部リモート相談により実施をしました。

また、会員等に会議や面接会などに貸し出し、利用促進に努めることとしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実会議等が中止となる中での利用促進については、難しい状況でした。

(9) 関係機関との連携強化について

工業団地の環境整備や活性化に向けた取り組みの実現には、関係機関の協力が不可欠であることから、白井市、警察署、民間バス事業者など各方面との連携強化を進めてきました。

要望活動については、白井市及び印西警察署をそれぞれ訪問し、道路、上水道、信号機などの整備、交通規制の緩和、路線バスの増便や延長などの要請をしました。

12月には、白井市の執行部との調整会議を開催し、工業団地の活性化や課題等の認識の共有を図り、改善等に向けた取組みを要請しました。

(10) 地域との交流及び地域活動支援について

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、白井市内の中学校や千葉県立白井高等学校へのキャリア教育の支援や連携事業などについて、ほとんど実施できませんでした。

一方、地元の白井第二小学校からは、工場見学や特別授業への支援の依頼があり、工場見学を3社で受け入れ、相互交流・理解を図りました。

次に、地元自治会・区、各種団体等との交流を発展させるため、白井市が推進する白井第二小学校区のまちづくり協議会に当初から参加し、地域への貢献などを通じて工業団地への理解を深めていただくとともに、交流を促進するよう進めています。なお、この街づくり協議会は、1月15日に設立され、当協議会からは3役及び事務局職員が参加をして交流を始めています。